

資料館だより

No.47 2014年

2 月号

過去と未来がひびきあう

ーようこそ、エコミューズへ。 www.aozora.or.jp/shiryou/



わくわく広げよう公害資料館の"わ" —公害資料館連携フォーラムin新潟 開催しました



で「公害資料館ネットワーク」を組織し、あおぞら財団が事務局を務め、一同に会して議論する初めての催しです。

1日目は全国13団体の公害資料所蔵機関の関係者が集まりそれぞれ自館の紹介をした後、今後の連携事業の推進とネットワークの拡大・強化に向けた提案がなされました。

その後、グループに分かれて今後の取り組みにあたっての課題や展望について話し合い、結果を全体で共有しました。



午後からは染川香澄さんが 基調講演「学び続けるきっか けとなる展示—ハンズ・オン とマインズ・オン」と題して ご報告された後、2日間にわ たり各分科会に分かれゲスト を招き報告と意見交流が行わ れました。

会場には展示コーナーが 設けられ、各団体の取り組 みがパネルで紹介されまし た。

最後に髙木勲寛さん(イタイイタイ病対策協議会会長)が「2日間互いに顔を合わせ議論し学んだことを



明日からそれぞれの活動に活かしていこう」と挨拶され、 フォーラムは閉会しました。

両日を通じて、全国各地から94名という多くの参加があり、公害を学び伝えていくことへの関心の高さを改めて感じるとなりました。多くの報道関係の方も取材に来られました。

参加者からは、近接地域の方とも初めて顔を合わすことができ、全国各地の取り組みも知ることができてとてもよかった。自館の運営・活動に活かせることを学ぶことができた。などの感想が出されました。

全国の公害資料館関係者の「顔の見える関係」を作る大きな一歩となった有意義な会議となりました。

公害資料館ネットワークの皆様、共催・後援頂いた各団体の皆様、ご講演・ご報告頂いた皆様、そしてご参加頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。

●藤井が語るこの資料●

基地公害と沖縄の現在(いま) ~「沖縄米軍基地公害・環境破壊調査報告書」 (患者会資料No.8999)

この資料は、全国公害弁護団連絡会議と全国公害被害者総行動実行委員会の主催で1999年9月23~24日に行われた沖縄県の嘉手納基地とその周辺での現地調査・学習交流会の報告書です。各地の公害訴訟原告団とともに、西淀川からも原告団・あおぞら財団が調査に参加しました。

沖縄本島中部に広がる嘉手納基地は、住宅地と接しているため、米軍機が昼夜を問わず市街地上空を飛び交い、その爆音により、聴覚障害、記憶力低下、低体重出生児などの被害が報告されています。また、基地内の土壌からは強い慢性毒性を持つPCB(ポリ塩化ビフェニール)も検出されました。



1982年、周辺住民906人が、早朝・夜間の飛行差し止めと騒音による精神的苦痛・健康被害に対する損害賠償を求め提訴しました。一審・二審を経て、基準値以上の騒音レベルの地域住民への損害賠償

が認められました。その後、2000年3月から第2次訴訟、2011年4月から第3次訴訟が行われていますが、今なお住民の頭上を米軍機が飛び交っています。

2014年1月19日、普天間基地(宜野湾市)の辺野古移設問題で揺れる名護市長選で、受け入れ反対派の現職が再選されました。激烈な地上戦と戦後の「銃剣とブルドーザー」(強制土地収用)による米軍基地建設を経験し、今なお在日米軍基地の74%が集中する沖縄において、基地の問題は住民の生活と切り離せない切実なものです。沖縄の人びとが平穏かつ平和に生きるという権利の根幹は、日米安保や東アジア情勢をめぐる政治情勢に翻弄され、基地問題の根本的解決が先延ばしされています。「リゾート地」としてだけではない沖縄社会の現実がここにあります。

翻って、八尾空港へのオスプレイ離着陸構想、高島市での日 米合同訓練、京丹後市への米軍レーダー基地建設計画など、 関西でもこの問題は決して他人事ではありません。沖縄の抱え る問題は、日本社会全体に突きつけられている課題だと言える でしょう。(藤井正太)